

Business Report

第74期 中間報告書

平成29年10月1日～平成30年3月31日



プロセステクノロジーで未来を拓く

ホソカワミクロン 株式会社



国内、海外子会社ともに
堅調に推移し、
業績は過去最高水準と
なりました。

上半期の業績について

株主のみなさまには、日ごろから当社グループの事業運営に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

前年度から継続して日本を含む世界の経済環境が比較的好調に推移していることもあり、米国の保護主義的な政策による先行き不透明感はあるものの、当社グループ業績は良好な状況を継続しております。

当第2四半期連結累計期間(平成29年10月1日～平成30年3月31日)は、粉体

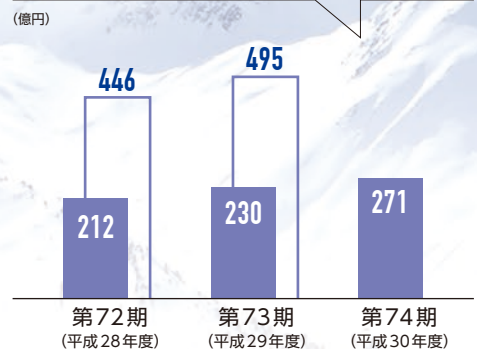
関連、プラスチック薄膜関連の両事業ともに、各地で大型案件を獲得するなど良好な受注が続いており、連結受注高は前年同期比19.6%増の320.2億円となりました。

売上においても好調な受注と高水準の受注残高を背景に、出荷が順調に進んだことに加え、対ユーロで期初の想定より円安に振れたこともあり、連結売上高は前年同期比17.7%増の271.6億円となりました。

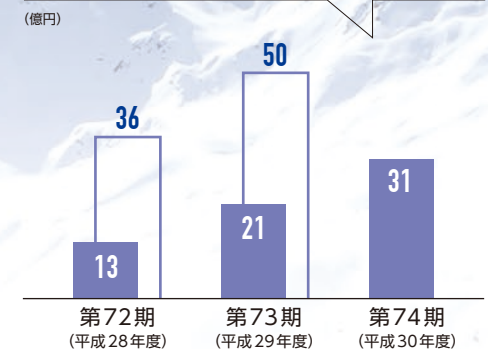
また、利益面においては、営業活動の増加に伴う販管費の増加はあったものの、増収と利益率の高い案件が貢献し、営業

財務ハイライト

売上高
前年同期比 **+17.7%**



営業利益
前年同期比 **+44.4%**



■ 中間期 □ 通期

■ 中間期 □ 通期

利益の段階では前年同期比44.4%、経常利益では35.5%の増益となりました。なお、純利益は、米国の税制改革をうけて、第1四半期に米国法人における繰延税金資産の戻し入れを行ったことから、前年同期比18.1%の増加に留まり、19.3億円となりました。

このように第2四半期業績は、得意とする高付加価値システムの出荷が進んだことで全般に期初の予想を上回り、営業利益、経常利益、純利益ともに過去最高となりました。

特に単体では増収効果もあって、営業利益は前年同期比75.5%増加し、売上

高営業利益率は14.7%の高水準となりました。

株主のみなさまへの還元につきましては、安定的な利益配分による1株当たり配当金額の増加に努めるなど総配分性向の向上を図る方針から、中間配当金は1株当たり50.0円とさせていただきます。

通期の見通し

下半期に入っても、日本をはじめ、海外の主要子会社でも良好な受注状況が継続しており、依然として高い水準の受注残高を持って推移しておりますが、期末にかけて

大型案件等の売上進行により、受注残高は減少していくと予想しております。

また、引き合いも活発な状況が続いており、業績は当面底堅く推移すると見込んでおります。しかし、第2四半期末の受注残高は高水準ながら来期計上予定の案件も多く含まれることや政治的・地政学的リスク、一部部品の納期遅延リスクなど、引き続き不透明要素も多いことから、通期連結業績予想は、売上高520億円(前期比105.0%)、営業利益53億円(前期比105.0%)、経常利益53億円(前期比101.5%)、当期純利益36億円(前期比100.8%)と期初予想を据え置きました。

今期から始動した新たな中期3カ年経営計画では、グローバルマーケティングの推進をキーワードに掲げ、ブランド力と収益力の強化に注力しております。強いブランド力を持った収益企業として飛翔を目指し、これからも努力を続ける所存です。

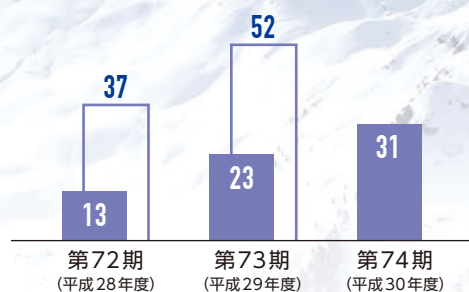
株主のみなさまには、引き続きご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年6月

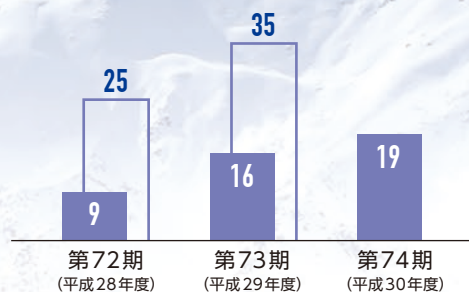
代表取締役会長 兼 社長
代表執行役員

細川 悦男

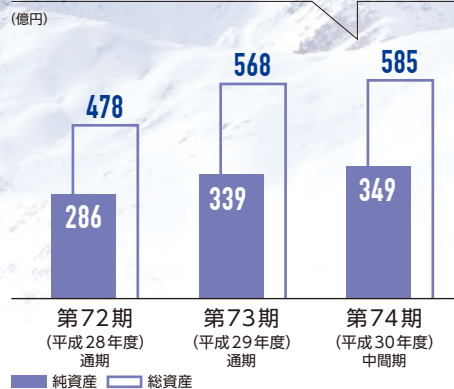
経常利益
前年同期比 **+35.5%**



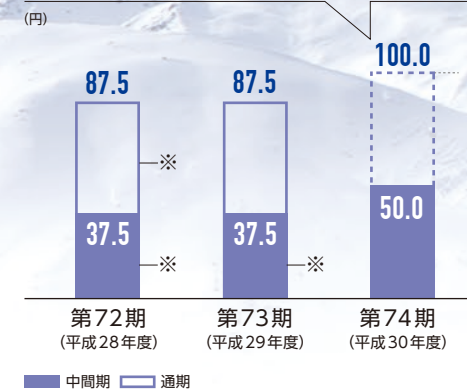
親会社に帰属する
当期純利益
前年同期比 **+18.1%**



純資産・総資産

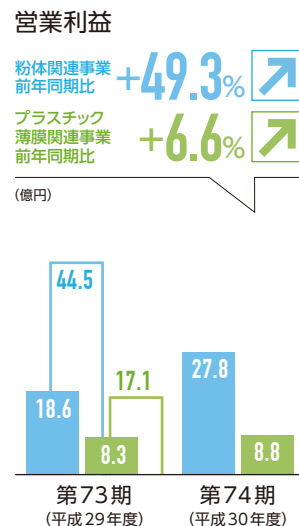
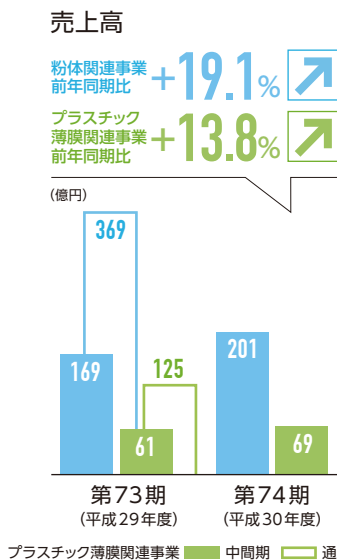
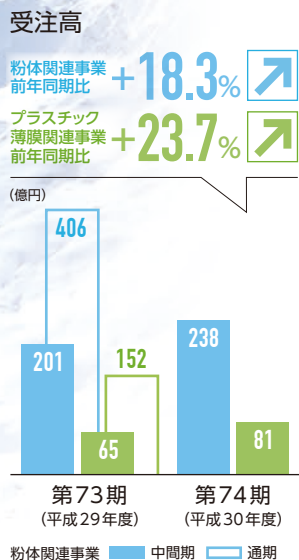
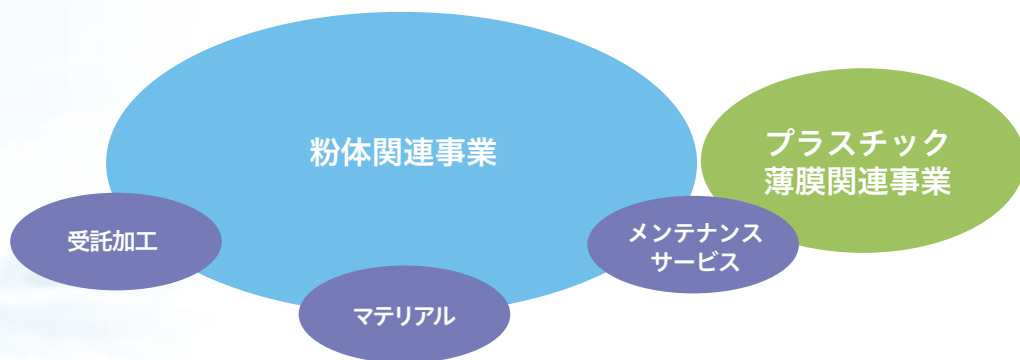


1株当たり配当金



粉体技術の開発を通じて社会に貢献しています。

当社は1916年の創業以来、“粉体技術”で世界の産業に貢献することを企業理念として事業を展開してまいりました。さまざまな粉体技術の分野における優れた製品群を峰々とし、それらを結びつけ、組み合わせるノウハウやエンジニアリング等の周辺技術をすそ野に配した雄大なホソカワの“粉体技術連峰”を形成することにより、常にグローバル・リーディングカンパニーであり続けます。



売上構成比

74.2%

粉体関連事業

さまざまな産業分野で用いられる粉状の原料や製品について、砕く、大きさ別に分ける、混ぜる、乾かす等の加工を行う粉体処理装置および日本市場における環境保全や製品捕集に用いる集じん装置、クリーンルームの開発・製造・販売とシステムエンジニアリングを行う事業です。

また、ナノ複合粒子技術を応用した新素材や化粧品・育毛剤等の開発・製造・販売・受託研究を行うマテリアル事業、材料の加工を請け負う受託加工事業も当事業の一翼を担っています。

<業績のポイント>

- 磁石やトナー、二次電池材料などの電子材料を筆頭に、化学、食品、合成樹脂用途が堅調に推移し、受注は前年同期比18.3%増。受注残からの出荷も進み売上は前年同期比19.1%増。増収増益。
- 堅調に推移していた医薬向け受注が出遅れる。受注の進捗は前年同期の半分以下。
- 国内向けに加え、イタリアおよびドイツを主とした食品向けが増加。
- 高収益の大型案件により、国内単体の上半期営業利益率は14.7%(前年同期9.7%)と高水準。

売上構成比

25.8%

プラスチック薄膜関連事業

食品包装や電子機器類保護に用いる多層構造の高機能フィルム製造装置の開発・製造・販売とシステムエンジニアリングを行う事業です。当事業を展開するホソカワアルピネAG(ドイツ)は、インフレーション法による薄膜製造装置の専門ブランドとして、世界で広く認知されています。

<業績のポイント>

- 即時償却を認める米国税制改革の影響もあり、米国受注が続伸。受注は前年同期比23.7%増。
- 受注が出荷を上回り、受注残高は約100億円に増加(前年同期約65億円)。増収増益。
- アメリカ向けは、3億円を上回る大型案件の受注も多く、業績に大きく寄与。
- 南欧および南米地域向け受注が増加傾向。

[基本方針] グループ一体となったグローバルマーケティング推進によるブランド力と収益力の強化

第16次中期3カ年経営計画 (平成29年10月～平成32年9月)

基本施策

グローバルマーケティングの強化による事業拡大

アフターセールス、受託加工事業の拡大および顧客満足の上向

営業、技術、生産、研究開発、財務におけるグループ戦略の構築・遂行

新製品開発と製品改良による高付加価値化とコストダウンの推進

業務・製造プロセスの分析と見直しによるグループ事業運営の最適化

平成30年度 重要施策

- グローバルマーケティング戦略の確立による販促活動の推進
- 受託加工事業における特殊分野拡大策の検討と実施
- 中国、韓国、東南アジア地域でのホソカワブランドとアジア販売子会社の強化
- 既存製品の改良推進とコストダウン設計に基づく新製品開発による収益性の向上
- 大阪工場建替えプロジェクトの推進

当中期計画では“グローバルマーケティング推進”のため、グループ企業が丸となって製品、技術、アプリケーションの開発と販売に取り組み、市場競争力の強化と収益性の向上を目指しています。

グループ各社のマーケティング担当を中心に、グループシナジー効果を最大限に発揮する販売体制や各社が得意とする技術の活況市場への迅速な拡販方法等

を検討しています。

また、グループ共通の強化ターゲットに定めた東南アジア地域の販売子会社や有力代理店の社員に対し、日本で装置実習や客先への同行訪問による営業研修を定期的 to 実施しています。同地域でのホソカワブランドの浸透加速を目的に、現地代理店や販売子会社社員の技術力と営業力の向上に取り組んでいます。

タイへ大型加工澱粉プラントを納入



今期は、各グループ企業による大型受注が業績のけん引力となっています。

タイに約6億円の加工澱粉製造設備を納入しました。

設備計画の段階から携わり、当社装置に加えて配管やタンク等の付帯設備を含めた設計および据付工事を現地協力会社と連携して担当し、約4年間にわたって一貫したエンジニアリングを提供しました。

当工場で生産された加工澱粉は、タイ国内のほか中国を主にその他東南アジア諸国向けに輸出され、パンやビスケット、焼き鳥のたれ、唐揚げ粉など、食品をより美味しくするために使われます。



写真は納入先工場の外観と内部

会社概要 (平成30年3月31日現在)

商号 ホソカワミクロン株式会社
 英文商号 HOSOKAWA MICRON CORPORATION
 創業 大正5年4月18日(1916年)
 設立 昭和24年8月13日(1949年)
 資本金 144億96百万円
 従業員数 351名(単体)、1,518名(連結)

世界 **12**カ国、**17**社、**21**拠点

国内 2社、6拠点
 海外 15社、15拠点

株主メモ

事業年度 10月1日から翌年9月30日まで
 定時株主総会 毎年12月
 基準日 定時株主総会 毎年9月30日
 期末配当 毎年9月30日
 中間配当 毎年3月31日
 そのほか必要なときは、あらかじめ公告して定めた日

公告の方法 電子公告(当社ホームページに掲載いたします)
<https://www.hosokawamicron.co.jp/>

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
 株主名簿管理人 大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031
 (インターネットホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

※配当金は支払開始の日から満3年(除斥期間)を経過しますと当社定款の定めにより、お支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。

配当金計算書について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

「コーポレートガバナンスに関する報告書」を当社ホームページ内の「投資家の皆様へ」のページに掲載しております。

ホソカワミクロン株式会社



<https://www.hosokawamicron.co.jp/>

GLOBAL

ホソカワアルピネ アメリカ (マサチューセッツ州/アメリカ)

好調を継続するプラスチック薄膜事業

ホソカワアルピネアメリカ社は、独ホソカワアルピネ社の米国子会社で、インフレーション法*を用いたプラスチック薄膜製造装置の販売・エンジニアリングを北米中心に40年以上にわたって展開しています。今までに約900系列の製造ラインを納入し、フレキシブル包装材の生産に用いられています。

インフレーション法で作られたフレキシブル包装材は、一般的なプラスチックフィルムと異なり、丈夫で化学的にも安定しており、空気や紫外線の高度な遮断機能を有します。そのため、肉やチーズ、スナック菓子等の鮮度を保つ目的から食品包装材

に用いられ、廃棄される食品の減量に貢献しています。また、軽量で丈夫な特徴を活かして梱包資材にも用いられ、輸送時のCO₂排出量削減にも貢献しています。その他、家庭用・産業用ゴミ袋等の用途も含め、年々需要が高まる傾向にあります。

フレキシブル包装材市場は、20兆円市場とされる北米の包装資材市場全体の約17%を占め、安定した成長を継続している非常に活況な市場です。



社長 David Nunes
 デイビッド・ヌーン

※インフレーション法とは、溶かした数種類の異なる樹脂を円筒状に何層にも押し出し、その中に空気を吹き込んで風船のように膨らませてフィルムを作る製法です。食品包装用袋、農業用フィルムなど、ポリエチレンフィルムの大部分は、この方法で作られています。



写真右：鮮度を保つ野菜の包装フィルムなどに使われています。

写真左：プラスチック薄膜製造プラント

ホソカワミクロン化粧品のご購入は
 インターネットまたはフリーダイヤルをご利用ください

☎ 0120-191-890

受付時間
 9:00-21:00

ホソカワミクロン化粧品

検索

証券コード：6277 本社：〒573-1132 大阪府枚方市招提田近1丁目9番地 TEL 072-855-2226 FAX 072-855-5197